

## 今日の一言（ガツン、ギャフン、シャキッ） 修正版

過日の「今日の一言」の中では誤解を招きかねない表記が散見できたので、ここで改めて書き直します。これは自粛のご時世、閉塞感が漂う現状を憂い、わが寺院、宗門でも転換の時期を余儀なくされています。魅力的な人やモノが少なくなった昨今を鑑み、一転語となるような刺さる言葉を模索しております。

その一つが、「ガツンとやってギャフンと言わせてシャキッとさせる」です。

コロナ禍とは、私は「神仏によって良くも悪くもふるいにかけて、断・捨・離を強いられている」と思っております。もちろんその中で犠牲になる人々を救済していくことは、慈悲を説く仏教者にとっては至極当然であります。組織を健全化し、経営を効率合理化するためには、ダメな人は排除をし、優秀な人と入れ替えることが最も有効な手段です。なぜなら人の本質はそうそう変わらないからです。その人以上の仕事は出来ないし、その人以上の人生はありません。

今、私たちはこのコロナ禍で生まれ変わる千載一遇の好機に遭遇しております。今なら事業を転換させ、人間関係を整理するには願ってもない好時節が到来しているのです。こんな時期に出会える現代人は何と幸せなのでしょう。今だったら何でも出来るんです。何でも変えられるんです。なぜ動こうとしないんですか。要は簡単です。死ぬ気でやればよいだけのことです。本物かを見極められる時なのです。本気かをはかれる時なのです。本質を見定められる時、本当のことを言える時、本来のあるべき姿を遡及（そきゅう）できるまたとない機会が到来しているのです。

私個人としても今年に住職人生の後半戦。原点回帰をして第二の創業を目指します。そして13年前、42歳で住職に就任した時のあの頃を思い出し、もう一度本気になって本物を目指して本当のことを直言します。本質で勝負します。本来のかたちを追求していきます。

良寛は言っている。「災難に遭う時節には災難に遭うがよく候、死ぬ時節には死ぬがよく候、是はこれ災難をのがるる妙法にて候」

江戸時代の禅僧、良寛和尚の至言である。天命に対する人の覚悟を説いたものである。人はそう簡単に死のうと思っても死ねるものではない。逆に生きてくても生きられるものでもないのである。天命によって生かされているだけなのである。この世のほとんどのことは人知を超えた世界であり、天命によって決まっているのである。じたばたすることは本当はないのである。人事を尽くしているのみなのである。凜として肝を据えていればよいのである。

平常心を道として生きていること。日々が好日であると信じていくこと。一期が一会であること。今日がすべてで今日が人生最後の日と思って生きていること。今日が終わりでも後悔しないこと。自分の人生にとっては、少なくとも常に必要なことしか起きていないのである。最善のことしか与えられていないのである。自分の人生の責任はすべて自分にあるのである。これを知ることが仏教である。修行である。

威風堂々と生きよ。

合掌

令和3年5月30日

見性院住職

#### ※禅語解説

- ・平常心（びょうじょうしん・へいじょうしん）是道
  - － どんな時でも心は冷静に、いつも通りの気持ちでいること。
- ・日々是好日（にちにちこれこうにち）
  - － つまらないことには執着をせず、毎日がよい日だと思ってくらすこと。
- ・一期一会（いちごいちえ）
  - － 今日の出会いは一生に一度。これを心して事にあたること。
- ・一転語（いってんご）
  - － 心機一転の語。迷いから悟りへ導き、転換することば。